



©2013kobe city No.R2-004

# 西区サポセン通信 Vol.8

## 「医療・介護における地域連携」

神戸市西区医師会 理事 井出 孝夫 氏



まず初めに、未曾有の災害となったこのCOVID-19感染の拡大の中、感染弱者でもある要介護者のため日夜奮闘しておられるすべての医療・介護職の皆様には心から感謝申し上げます。この原稿作成時点ではようやくワクチン接種が開始され、わずかに未来への希望が感じられるようになってきました。と同時に、第3波が収まりつつありながら早くも次の感染拡大も懸念されており、このコロナ禍の一日も早い終息を願わずにはられません。

さて介護保険委員会担当理事となったこの1年間で、西区医療介護サポートセンターの活動を以前よりも詳しく知るところとなりました。その取り組みは「つながりを深める」ことを目標に非常に多岐にわたっています。様々な工夫を重ねながら各々が狭い専門性を乗り越え「顔の見える」関係を目指すコーディネーターの奮闘のほどには驚かされることばかりです。

その意味では私自身が日常的に携わっている「透析医療」、つまりきわめて専門的でありつつ患者さんの生命維持のために不可欠な治療について、この場をお借りし皆さんに知っていただくことも意味があると思われま

す。ご存知の通り、透析は慢性的に腎臓が悪くなり尿毒素や水分の除去が必要となった患者さんに対して行う治療です。具体的には週に3回、1回4~5時間の血液浄化が必要で、1年を通し祭日や盆・正月なども休むことはできません。

2019年の日本透析医学会による統計で、患者数は日本で約34.5万人、兵庫県では1万4千人余り、透析開始の平均年齢は今や70歳となっており、その約半数は糖尿病から起こっています。高齢で糖尿病を合併しているために認知症発症のリスクが高く、また腎不全は動脈硬化を起こしやすいことから心臓病や脳

血管障害、末梢の血流障害が高頻度で見られます。驚いたことに透析患者の閉塞性動脈硬化症による下肢切断率は、糖尿病のみの患者と比較して10倍高く、冠動脈疾患による死亡リスクは腎機能正常者と比べ10倍~30倍ともいわれています。実際、透析医療は半面、合併症との闘いでもあります。

更に透析患者では容体の急変がしばしばみられ、地域の救急病院との連携は不可欠です。また認知症のため送迎時間や場所あるいは透析日が分からなくなり何らかの介護が必要となる方も増えています。そういった問題に対して当院としても地域の社会資源を積極的に把握・活用し、必要な介入に取り組むようにしています。

ある高齢女性は伴侶を亡くしてから急速に認知症が進行し独居が困難となりました。生命の危険も懸念されたため施設入所を検討しましたが経済的事情でかなわず、関係者と協議の結果、小規模多機能施設を効率的に利用することで持続可能な生活形態を作り出すことが出来ました。現在もその患者さんは元気に通われており、地域の介護力と多職種の連携が功を奏したケースでした。

このように人工臓器を利用した医療のうち、数少ない成功例といわれる透析の世界でも既に地域の介護の助けを借りずに治療を継続することは困難な時代になっています。

今後は連携の要として医療介護サポートセンターの役割はますます重要となりそうです。対面が困難なコロナ禍の時代、最初は不慣れで緊張していたWEB会議もいつの間にか利用している人の多くが堂に入っている様に感じます。仕事場からや短時間でも参加が可能となり、むしろ以前より集まりやすくなった面もあります。これからも知恵を絞り様々なツールで「深くつながって」いけるよう、微力ながら努力したいと思います。



「生活習慣病と介護の重度化予防に向けて」  
 兵庫県栄養士会 栄養ケア・ステーション  
 西区担当 管理栄養士 三島 詩子 氏



令和3年は、コロナ禍での幕開けとなりました。依然収まる兆しのない中、医療介護職の皆さまには大変お世話になり、ありがとうございます。平成29年度より、西区医療介護サポートセンターに、兵庫県栄養士会、栄養ケア・ステーション西区代表として、会議や研修会に参加しています。

地域活動中心の栄養ケア・ステーションですが、介護分野では、神戸市介護予防講座を中心に活動しています。在宅療養者向けには、介護の重度化予防のために、訪問栄養食事指導に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症は、基礎疾患を持つ方が感染すると、重篤になりやすい事は周知の通りです。基礎疾患のほとんどは、肥満・糖尿病・高血圧症等の生活習慣病です。これらの生活習慣病は感染症だけでなく、心臓や脳血管障害を起こし、重度の介護状態に繋がります。生活習慣病の治療は、本当に急がなくてはなりません。服薬だけでは治療が難しく、運動や栄養の指導を受け、適切な運動量、適切なエネルギー量を摂る、良い生活習慣を持つ事が重要です。

前期高齢者の場合は、過栄養による生活習慣病を持つ方が多いですが、後期高齢者になると、フレイルやサルコペニアが一挙に増えていきます。この移行期は、個人差があり、ほとんどの高齢者が、良い食習慣が分からないまま年齢を重ねています。又、糖尿病等の生活習慣病で長く治療している方の中には、厳しい食事制限を継続しフレイルになるケースも年々増えています。

高齢者の栄養を考える場合、生活習慣病での過栄養によるエネルギー制限から、フレイル予防のための適切なエネルギー摂取へ、うまくギアチェンジしていかなければなりません。高齢者の栄養サポートが必要なタイミングは、生活習慣病診断時、退院退所時、介護予防講座、訪問栄養食事指導と多岐にわたります。

地域で開催される介護予防講座ではレシピ紹介に始まり、保存食や、簡単な調理法、生活習慣病を伴う場合の代替え食品の取り方等の指導を行います。フレイルは可逆的で、改善する事で元気を取り戻します。

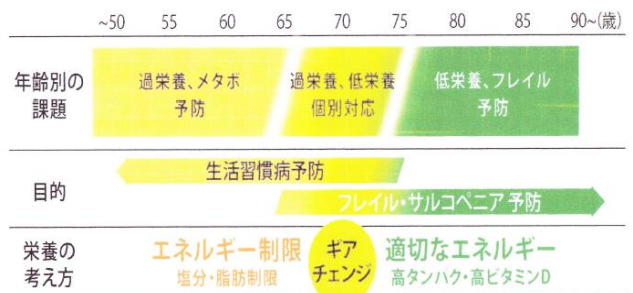
在宅療養者向けの訪問栄養食事指導では、対象者の嗜好や家族関係、台所状況にも配慮しながら進めていきます。嚥下不良の対象者には身近な食材の形態を変えていく事、冷凍食品や栄養補助食品も含めた食品紹介や調理法を指導しています。

このような栄養サポートは、栄養士・管理栄養士が、丁寧な食事介入をする事で、経口摂取を増やし、栄養の改善を可能にしていきます。小さな成果でも、少しずつ積み重ねていく事を大切にしています。

今後も感染予防をしながら、在宅医療介護生活を支えるべく、医療介護の職種の皆様と連携、情報共有し、尽力していきたいと思っていますので、宜しくお願い致します。

なお、栄養・食事のご相談は、兵庫県栄養士会（TEL：078-251-5311）までお問い合わせください。

年齢別栄養管理（カロリー摂取）に関する考え方の「ギアチェンジ」



資料論文、医事新報4797「高齢者の栄養管理」p41-47の図4から引用改良  
 高齢者ケアに携わるすべての方へ「食べる」とは「フレイル対策」(東大・飯島勝夫)





## ■第13回医療・介護関係者の研修会

開催日時：令和3年1月21日(土)14:00～15:30  
 場所：オンライン(Zoom) 参加者：77名  
 講演：『心不全の在宅管理』支援のポイントとコロナ対策について  
 座長：西区医師会 副会長 石原健造氏  
 講師：神戸市立西神戸医療センター副院長・循環器内科部長 永澤浩志氏



石原 健造氏



永澤 浩志氏

### ●「心不全」の学び

講演では、高齢化にともない心不全患者が増加傾向にあり、早期からの介入、QOL維持の為に再入院予防が必要である。再入院予防にはチームでの介入が有効で、地域全体での再入院予防が望ましい。終末期医療・緩和ケアでは、ACPの必要性、緩和ケアでの各専門職の在り方、チーム介入等について貴重な学びをしました。また、兵庫県緊急事態宣言発令の中、新型コロナウイルス感染症対策については、「感染経路の遮断、マスク、手指衛生の徹底、換気。患者接触前後の手指衛生の徹底、患者がマスクをしていない場合はゴーグルを着用し、感染リスクを減らし、家庭内でもできることを実践する」を学び、西神戸医療センターの現状も教えて頂きました。

### ●質疑応答では、

「入浴・運動・水分制限」「神戸市版心不全手帳」についてわかりやすくご説明を頂きました。主治医との連携・関係づくりが在宅支援において重要である事を認識する機会となりました。

### ●アンケートより

「職種ごとにどのようなことに気をつけてケアしていくべきか学びました」「心不全のステージが何度なのかを、今回のご講演で少し理解できたので、これからの服薬指導に活かしたいと思います」「コロナ対策についても改めて自分たちでできる事を徹底していきたいです」など「学び」についてのご意見が多数ありました。

石原先生、永澤先生ありがとうございました。



## ■第9回ワールド・カフェ

開催日時：令和3年2月4日(土)14:00～15:00  
 場所：オンライン(Zoom) 参加者：37名  
 テーマ：今在宅医療介護連携について思う事  
 内容：2ラウンド(ブレイクアウトルーム)・発表



### ●医療介護連携についての意見

「病院との連携は敷居が高く、診療所に比較すると連携が図りにくい」「通院困難な方は訪問診療の相談をするなど在宅医療について周知されてきている」「主治医に介護保険や医療保険のことを理解してもらえると連携が取りやすくなると思う」「薬剤師が参加した担当者会議は大変有意義」など。

### ●新型コロナ感染拡大に対する意見

「顔の見える関係が後退したように感じる」「本人に会えず、状況をつかみにくい」「発熱時など受診や検査に行く方法がなく、困ることがある」「風評被害予防の為に情報共有できず、感染拡大の予防が難しくなっている」「通院控えや外出自粛による運動機能の低下など状態の悪化が起こっている」など。



ブレイクアウトルーム  
(グループワーク)の様子



メインルーム (参加者の皆様)

### ●その他の意見

「サポートセンターの活動に参加する医師が少ない」「利用者の為に躊躇せずに情報提供を求めていきたい」「連携に困った時に相談できる相手が欲しい」「経験値を高め、誰の為という視点が必要」など。

### ●アンケートより

「普段出合うことのない職種、経験値の異なる方など多職種の方の意見や悩み、気付きを聴くことができ、大変良かった」「コロナ禍での現状、課題もわかった」「全員が意見を言える環境だったので、それぞれの立場の事を聴く事ができた」など、沢山のご意見を頂きました。



開会の挨拶  
西区医師会  
会長 増井氏



閉会の挨拶  
西区医師会  
副会長 石原氏

※開会・閉会挨拶、グループワークのファシリテーターを、増井先生、石原先生にご協力をいただきました。

## ■第8回多職種連携事例検討会

開催日時：令和3年3月18日(木)14:00～15:30  
 場所：オンライン (Zoom) 参加者：69名  
 テーマ：認知症独居高齢者支援への多職種連携  
 どうしたら上手いく？医療・介護の連携  
 座長：小林こころのクリニック 小林 実氏  
 パネリスト：早川内科クリニック 早川雅弘氏  
 枝吉調剤薬局 宮城 要氏  
 西区社会福祉協議会 加上昌子氏  
 玉津あんしんすこやかセンター 岡本健吾氏  
 ポリライフケアサービス 西本由紀子氏  
 神港園ホームヘルプセンター 松尾寛子氏



©2013kobe city No.R2-004



上左から：小林氏、早川氏、岡本氏、中央左から：加上氏、西本氏、松尾氏  
 下中央：宮城氏

### ●内容

事例を基に専門職としての「課題」と「連携」についてパネルディスカッションで検討。  
**早川医師**：認知症の方の場合急に関係性に変化が生じる事がある。情報交換を密にしてい  
 く事が課題。 **宮城薬剤師**：その方の生活に  
 応じた準備をすることが薬剤師の役割。支援  
 者で対応の仕方を揃得る事も大事。 **加上課  
 長**：情報共有の機会を通して役割分担をして  
 いく事が必要。 **岡本管理者**：地域の関係  
 を作り、ケアマネジャーと共に幅広い資源との  
 連携を図ることが役割。 **西本ケアマネ  
 ジャー**：担当者が交代し、混乱もあったが、  
 顔を見て話す事より安定方向へ。情報交換の

中で本人の良いタイミングを知る事が大事。  
**松尾センター長**：家事は目的ではなくどの様  
 な生活をしているのかを知る手段。情報をケ  
 アマネジャーにいかに発展させて貰える様に  
 伝えるかが大事。 **小林医師**：それぞれの職  
 種で見える課題がある。本人の希望に寄り添  
 うことが必要。

**各専門職から、在宅支援における多職種連  
 携の大切さや熱意が語られました。また、安  
 全・安心のためにサービスの導入を進めるの  
 ではなく、本人の尊厳と意思を尊重していく  
 事の大切さが話されました。**



### ●質疑応答

ご近所との関りも少なくなっている方の在  
 宅生活を支えるためには、多職種が沢山話を  
 聞き、情報を共有。本人の希望を尊重し、ケ  
 アマネジャーを中心に各専門職の役割を果た  
 していく事の大切さを感じる事ができました。

### ●アンケートより

「様々な職種の考え方を知ることができ  
 た」「多職種の情報共有の大切さや連携を  
 図り関わっていく事の大切さを再確認でき  
 た」「自分のケースに活用していきたい」等、研  
 修目的の達成を感じる事のできることご意見  
 を沢山頂きました。

研修会開催にあたり、ご協力を頂きました  
 皆様ありがとうございました。

## ■研修会開催予定(詳細は西区医療介護サポートセンターのホームページをご覧ください)

開催日程	場 所	テーマ
4月15日(木)14:00～15:30	オンライン(Zoom)	ワールド・カフェ♪「在宅看取りについて」 皆様のご参加をお待ちしております。
5月13日(木)14:00～15:30	オンライン(Zoom)	「整形外科領域～こんなサインを見逃すな！」 座長：中神 祐介医師 講師：厚井 薫医師
6月17日(木)14:00～15:30	オンライン(Zoom)	「精神科リハビリテーションについて」 座長：調整中 講師：西村 暢宏医師
7月頃	オンライン(Zoom) 予定	事例検討会(仮)「在宅看取りにおける多職種連携 ～苦手を克服～」 座長・パネリスト：調整中

西区医療介護サポートセンターは、医療、介護、福祉の関係者からの在宅医療に関する相談への対応や、各種の研修、市民の方への在宅医療・介護に関する普及啓発などの業務を行っております。医療・介護・福祉関係者の皆様、お気軽にご相談ください。

西区医療介護サポートセンター コーディネーター：田中・溝端  
 受付時間：月～金曜日(祝日・年末年始を除く) 電話：078-797-7830  
 午前9時～午後5時 FAX：078-797-7831

※研修会の様子はホームページをご覧ください。



西区医療介護サポートセンターホームページQRコード

★次号は令和3年8月発行予定です